



十二月の句

とうきょうも 東京も師走となつてをりにけり・稲畑汀子

しわすとなつて おりにけり

翼なき肩を並べて日向ぼこ・鷹羽狩行

つばさなき

かたをならべて ひなたぼこ

たくさんのやさしき言葉クリスマス・石川英利

たくさんの

やさしきことば クリスマス

小春日や寝そべる虎の大欠伸・青木暁子

こはるびや

ねそべるとらの おおあくび

人生を語るも年の暮らしく・稲畑汀子

じんせいを

かたるもとしの くれらしく

きがつくと、ことしものこりわずか。クリスマスに、大みそか、お正月。これからのいいことがいっぱいですね。一ねんかんのことをおもいだしながら、げんきにこえをだしてみましよう。

わたしは見た

よだじゆんいち
与田準一

はるのおかでわたしはみた。
しずかにもえるたいようを、
くさがつけたちいさいなはなを。

なつのおかでわたしはみた。
ゆうだちのあとのにじのはしを、
くさにひかるあめのしずくを。

あきのおかでわたしはみた。
うろこぐものきれいなれつを、
くさがつけたちいさいみを。

ふゆのおかでわたしはみた。
やまをこえるわたりどりを、
かれはのかけではるをまつめを。

はる、なつ、あき、ふゆ。それぞれのきせつに
ちいさいのちがみられます。ちいさいのちを
たいせつにするきもちでよんでみましよう。



おどろろ

「なゆきみゆき

ふわふわわらわらってワルツ
ひらひらまわってタンゴ
あとからあとから こなゆきのおどり
はらはらにぎやかクイック
ほろほろゆるやかスロー
あっちも こっちも こなゆきのおどり
せかいじゆうをつつもう
まっしろにつつもう
そしておどろろ おおぞらを

ゆきはのはらをつつむハンカチ
つつまれて
のはらはるの ゆめみる

こなゆきがまうようすをみて、おどっているようにみえた
ことありませんか。ゆきがふるのをたのしみにまっつて、
ゆきとおどるようになったのしくよんでみましよう。

たけのこがたり

つきからのしや

竹取物語十二月からの使者

かかるほどに、よいうちすぎで、
ねのときばかりに、いへのあたり
ひるのあかさにもすぎてひかりわたり、
もちづきのあかさをとおあわせたる
ばかりにて、あるひとのけのあなさえ
みゆるほどなり。

かかるほどに、宵内過ぎて子ねの時ばかりに、家の辺り
昼の明さにも過ぎて光りわたり、望月の明さを十あはせたる
ばかりにて、ある人の毛の穴さへ見ゆるほどなり。
おおぞらより、ひと、くもにのりておりきて
つちよりごしゃくばかり

あがりたるほどに、たちつらねたり。

大空より、人雲に乗りており来て土より五尺ばかり
あがりたるほどに、立ちつらねたり。
これを見て、うちなるひとのこころども、
ものにおそわるるようにて、
あいたたかわんこころもなかりけり。

これを見て、内外なる人の心ども、物におそはるる
やうにて、あひ戦はむ心もなかりけり。
かろうじておもいおこして、
ゆみやをとりとたてんとすれども、
てにちからもなくなりて、なえかかりたり。

からうじて思ひ起こして、弓矢をとり立てむ
とすれども、手にもなくなりて、なえかかりたり。
なかにこころさかしきもの、ねんじていんと
すれども、ほかさまへいきければ、あれもた
たかわで、こちただしれにして、まもりあえり。

中に心さかしき者 念じて射むとすれども、ほかさまへ行きければ、
あれも戦はで、心地ただしれにして、まもりあへり。
たてるひとどもは、しようぞくのきよらなること、
ものにもにず。とぶくるまひとつぐしたり。
らがいさしたり。

立てる人どもは、装束の清らなること、ものにも似ず。

飛び車一つ具したり。羅蓋さしたり。

午前0時ごろに、家の周りが昼の明るさ以上に光り、満月
の明るさを十倍にしたようで、そこにいる人の毛穴まで見える
ほどでした。空から人が雲に乗って降りてきて、地面から
少し上がったところに立ち並んでいる。もののけにおそわれる
ようで、戦おうとする気持ちもなくなりました。立っている
人たちは、美しい服を着て空飛ぶ車を一台ともなっています。

